共同研究報告

八王子市立秋葉台小学校

多摩市立東愛宕中学校

相模原市立上溝南中学校

昭島市立拝島第二小学校

八王子市立由木中学校

多摩市立永山小学校

八王子市立大和田小学校

日野市立南平小学校

町田市立小山田南小学校

八王子市立秋葉台小学校

研究テーマ	書く力の育成～国語科を通して～	
申請者	氏名又は名称	八王子市立秋葉台小学校
	代表者氏名	小林　幹彦
	電話番号	042-676-6133
	FAX番号	042-677-3712
	アドレス	
	教職員数	23名
研究の実施場所	八王子市立秋葉台小学校	
研究・実践の内容、方法及び規模	授業を中心に研究を進める。 外部講師等からの指導を仰ぎながら、校内で低・中・高学年、特別支援学級の研究授業を実施し、有効な指導法を開発していく。	
公共団体等からの助成の有無及び実績	なし。	
実施期間	H25年４月１日からH26年３月31日まで	
研究費用の総額	127,000円	
補助金交付申請額	100,000円	

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
新倉　アキ子	帝京大学大学院教職研究科・客員准教授	
藤井　靖史	帝京大学大学院教職研究科・教授	
田村　順一	帝京大学大学院教職研究科・教授	

①　研究テーマ	
書く力の育成～国語科を通して～ 目指す児童像 低学年「書くことが好きな子」、中学年「書くことを楽しむ子」、高学年「自分の思いや考えを適切に書く子」 特別支援学級「自分の気持ちや伝えたいことを文章で書くことができる子」	
②　学校名	八王子市立秋葉台小学校
学校長名	小林　幹彦

③　研究のねらい

本校では日常の学習活動や各種学力調査の中で、児童の「書く力」の育成が課題として浮かび上がってきている。この現状・実態を踏まえ、本研究では教員の授業力の向上を図り、児童の「書く力」を育成・向上させることをねらいとする。

授業力の向上は、様々な面から検討することができるが、本研究では主として①「児童の発達段階」を認識する、②「授業のねらい」を明確にする点から研究を進める。多様な学力・実態の児童に、何を伝え、何を身につけさせるのか明確な授業、授業後に何が分かり、何が身についたかを意識化できる授業を目指し、外部講師等を活用しながら実践的な授業研究を進めていく。

④　研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）

実施日	内容や経過
4月 4日（木）	本年度研究委員会顔合わせ。役割分担。
4月 8日（月）	今年度の計画。
4月 9日（火）	今年度の計画。
5月15日（水）	全体会。講師：石川和弘（指導主事）。 研究主題について、テーマへの迫り方。書く力に求められていること。
5月20日（月）	授業研究日程調整。
6月 5日（水）	分科会テーマ、授業研究に向けて。
7月 3日（水）	分科会、授業研究に向けて。研究構想図の共通理解。 書くことにおいて、以下の２点に着眼した指導を行えば、書く力を育成することができる。①関心のあることや身近な内容を設定する②取材の仕方を計画的に行う。
8月28日（水）	パワーアップ研修。講師：藤井靖史教授　「発達障害の理解と支援」
8月29日（木）	パワーアップ研修。講師：藤井靖史教授　「読み書き障害」
9月11日（水）	中学年研究授業。「お話の好きな場面を詳しく書こう」
10月 9日（水）	高学年研究授業。「多様な情報をもとに考えを深める」講師：福嶋隆史氏
11月20日（水）	特別支援学級研究授業。「思い出して書こう『学芸会の作文』」講師：植草久子氏
12月11日（水）	低学年研究授業。「お話の続きを書こう『大きなかぶ』」
1月20日（月）	分科会まとめ。成果と課題。
1月27日（月）	成果と課題。
2月19日（水）	来年度の研究について。

⑤　成果と課題

成果

発達障害の視点から児童の実態を見ていくことで、児童の感受性（教材の受け止め方）が多様であることを教員間で共通認識することができた。

「書く力」という抽象的なテーマから、具体的に教えるべき内容は何なのかを考えて明確にしていく授業研究の方向性が教員間で共通認識できた。

課題

発達の違いに対応していくために、どのような手立てがあるのか、より多くの事例を蓄積し教員間で共有していく必要がある。

「書く力」が具体的にどのような知識や技能・技術によって構成されているのか、授業で伝えることのできるものは何なのかなどについて一般化された知見が不十分である。

来年度に向けて

ユニバーサルデザインの発想を応用して、具体的な発達の違いに対応していく事例を確認し、共有していく。特に、視覚支援の具体的方法を事例研究等から確認していく。

授業の初めに「本日のねらい」や「めやす」を明確にし、授業の終わりに「何が分かったか」「何が身についたか」を言語化させる授業展開を実践的に研究していく。

外部講師との連携

今年度は、新倉アキ子客員准教授及び田村順一准教授に研究全体のコーディネートをお願いした。

藤井靖史教授には、発達障害の視点で「書く力」を研究する基礎知識を教授していただいた。

福嶋隆史（ふくしま国語塾主宰）氏には、「書く力」をより具体的な、教えることのできる技術の視点で考えていくことを教授していただいた。

植草久子（都立多摩桜の丘学園主幹教諭）氏には、特別支援を必要とする児童への具体的な対応やその可能性について教授していただいた。

京極澄子（日野市立第三小学校長）氏には、ユニバーサルデザインの発想を教授していただいた。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
新倉　アキ子	帝京大学大学院教職研究科・客員准教授	
藤井　靖史	帝京大学大学院教職研究科・教授	
田村　順一	帝京大学大学院教職研究科・教授	

多摩市立東愛宕中学校

研究テーマ	豊かな人間性を育てる持続発展教育（ESD）の実践	
申請者	氏名又は名称	多摩市立東愛宕中学校
	代表者氏名	冨 田　 広
	電話番号	042-374-9781
	FAX番号	042-337-7648
	アドレス	daihyo-higasiatago-chu@city.tama.ed.jp
	教職員数	17名
研究の実施場所	多摩市立東愛宕中学校	
研究・実践の内容、方法及び規模	本校におけるESDの実践を、「ボランティア活動」「職場体験学習」「グリーンカーテンと野菜・果実の栽培」「ネット通信、アートマイル（海外の学校との壁画共同制作）、震災支援募金活動による気仙沼市立大谷中学校との交流」「校庭の芝生を活用して、地域住民との交流の場とする」の５つとして、その成果を検証する。また、帝京大学教職大学院生　関根健太と協力して、各実践に取り組む。	
公共団体等からの助成の有無及び実績	無	

実施期間	平成25年４月１日から平成26年３月31日まで
研究費用の総額	300,000円
補助金交付申請額	100,000円

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
澁澤　文隆	帝京大学大学院教職研究科・教授	

①　研究テーマ	
豊かな人間性を育てる持続発展教育（ESD）の実践	
②　学校名	多摩市立東愛宕中学校
学校長名	冨 田　 広
③　研究のねらい	
これまで本校で実践してきた教育活動の中で、ESDの柱のひとつである「人や社会、自然とのつながり」について着目し、学校以外の人材活用や外部機関を活用した教育活動を推進することで、豊かな人間性の育成に関わるESDの成果を検証する。	
④　研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）	
実施日	内容や経過
	①ボランティア活動への取り組み ５月：赤十字運動キャンペーン、７月：社会を明るくする運動、近隣公園祭礼、９月：青少協あいさつ運動、10月：地域行事秋そば祭り、12月地域行事どんど焼き茅刈り、１月：どんど焼き棟上げ、お焚き上げ、通年：毎月11日：東日本大震災復興支援募金活動 ②グリーンカーテンへの取り組み ６月～ゴーヤの栽培、収穫と地域への配布 ③学校外との交流 国際交流壁画共同制作プロジェクト（キルギス共和国、Humanitarian Lyceumとの交流）９月：電子フォーラムやテレビ会議による交流、10月：調べ学習、11月：壁画テーマや構図等の協議、12月：壁画制作、キルギスへ郵送、２月：キルギス側制作。 ④職場体験学習 外部講師による事前学習、企業の社会貢献・責任について学ぶ。 平成26年２月３日（月）から２月７日（金）に多摩市内各事業所で実施。 ⑤校庭の芝生化の活用 ５月：愛宕児童館主催「幼児の時間」の実施、８月：防災キャンプの実施、 通年：地域団体への開放 以上、５つの教育活動を中心に、既存の教育活動をESDの考え方や視点で整理し、「人と人」「人と自然」「人と社会」をキーワードに、地域との関わりを中心にして、社会における中学生としての役割を意識させた指導を行った。

5月10日（金）	校内研修会「ESDに対する理解を深める」 講師：本校校長　冨田　広 ESDの研究目的等の原点について、再度、共通理解を図る。
6月21日（金）	ACCUユネスコ・アジア文化センター　米国教員来校交流会の実践 ESD授業参観　生徒の英語スピーチによるプレゼント交換を行う。
10月29日（火） および 11月14日（木）	保健・体育の授業にて、地域のグランドゴルフチーム「あおぞら会」の団体の方々をゲストティーチャーとしたグランドゴルフを題材とした授業を芝生校庭で実践。

⑤　成果と課題

昨年度の教育活動をうけ、本校では、既存の教育活動をESDの考え方や視点で整理することから始めて、ESDの柱のひとつである「人や社会、自然とのつながり」について着目し、学校以外の人材活用や外部機関を活用した活動で、ボランティア活動や職場体験学習などの５つの教育活動を柱に、ESDの実践に取り組み豊かな人間性の育成に臨んだ。

「社会の一員としての意識」「他者と協力する態度」「地域貢献、福祉活動を考慮した職業観」「ボランティアや奉仕の精神」「自然環境への興味・関心」「おもいやり」などを中心に、地域と連携・協力し、取り組んだ。特に、生徒のボランティアの精神では、毎回の参加者数の多さから生徒の意識の向上が見られた。当然、本校における取り組みを検証していくと、どれか一つの取り組みにより、生徒の意識が高まったということではなく、それぞれの取り組みにおいて、「人と人」「人と社会」「人と自然」をキーワードに、地域との関わりを中心にして、社会における中学生としての役割を意識させた結果である。そして、地域のボランティア活動や環境教育、震災支援活動などの多様な取り組みを行ったことにより、生徒一人ひとりがそれぞれの個性や特性を生かして活動に取り組むことができたことや、これらの実践が年間を通して時期や形式を変えて行われ、地域や社会に対する責任感の育成に継続的に取り組んできたこと、職場体験学習と環境教育を関連させたり、ボランティア活動と関連させたりするなど、それぞれの取り組みを相互に関連させながら指導した結果である。

このように「地域や社会に対する責任感」や「他人に対する思いやり」を育成するという同一の方向性をもって、各取り組みの多様性、継続性、関連性を考慮して指導してきたことが、思いやりや優しさを育み、豊かな人間性の育成につながった。

しかし、生徒が学習の成果をもとに自治体や事業所など社会に働きかける点において課題が残った。このような働きかけを行うためには、生徒のクリティカルシンキングの能力を高める必要があり、各教科における基礎学力の充実が今後の課題となる。その解決に向けてESDカレンダーを活用して、各教科の指導内容に再度、ESDの視点を取り入れ、各教科間の連携を強めていくことが必要である。

また、今後も、地域の方や民間企業、NPOの方などと継続的に連携をもち、幅広い視点から生徒が自ら考え行動できるようにしていくことが重要となる。そして、教員も外部機関の方々のもつ専門的な知識や技能を学校教育に取り入れていく姿勢をもち、外部機関との連携を深めていくことも課題となる。

今後も「どのような生徒の育成を目指すのか」について共通理解をもちながら、継続的に生徒の変容を測り、行動観察や各取り組みについての作文なども生徒の変容を評価をする上で積極的に取り入れていくことも課題となった。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
澁澤　文隆	帝京大学大学院教職研究科・教授	

相模原市立上溝南中学校

研究テーマ	生徒一人ひとりの学びを保障するために 「表現的・活動的・協同的な学び」をめざした授業改善	
申請者	氏名又は名称	相模原市立上溝南中学校
	代表者氏名	稲 葉　茂
	電話番号	042-763-0155
	FAX番号	042-763-0193
	アドレス	inaba429@sgw.sagamihara-kng.ed.jp
	教職員数	45名
研究の実施場所	相模原市立上溝南中学校内	
研究・実践の内容、方法及び規模	○年間４回全員の授業を公開する公開授業研究会を実施する。その時には、外部講師を招聘し、午前中に全員の授業を見て頂き、午後に焦点授業を実施する。焦点授業は全員参観し、授業後全員協議による授業研究を行う。 ○公開授業研究会がない月は、学年職員で授業を公開し参観する学年別ライブ研修を実施する。 ○先進校視察研修を随時実施し、研修報告書をもとに全員で先進校の取り組みを共有する。 ○コの字型机配置、男女混合４人グループを授業の基本とし、モノなどの教材を工夫する。 ○「聴き合う関係（耳を傾け、注意して聴き合う）」と「訊き合う関係（分からないことを質問する）」づくりを工夫する。	
公共団体等からの助成の有無及び実績	相模原市教育委員会　特色ある学校教育研究校　２年目 研究助成金　￥120,000	
実施期間	平成25年４月１日から平成26年３月31日まで	
研究費用の総額	270,000円	
補助金交付申請額	100,000円	

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
坂本　和良	帝京大学大学院教職研究科・教授	

① 研究テーマ	
生徒一人ひとりの学びを保障するために 「表現的・活動的・協同的な学び」をめざした授業改善	
② 学校名	相模原市立上溝南中学校
学校長名	稲 葉　茂

③ 研究のねらい

学校の大切な役割は、生徒一人ひとりに「確かな学力」を身につけさせることである。１時間の授業の中に「活動と共有（全体）」、「協同（グループ活動）」、「表現と共有（全体）」の３つの要素を取り入れ、生徒一人ひとりの大切な学ぶ権利を「人・モノ・こと」との出会いを大切にする中で創造する授業づくりをする。

④ 研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）

実施日	内容や経過
5月13日（月）	第１回公開授業研究会 講師　スパーバイザー　馬場英顕先生 焦点授業　社会　戦国時代　伊藤教諭
6月 7日（金）	第２回公開授業研究会 講師　学習院大学教授　佐藤　学　先生 焦点授業　数学　平方根　中井教諭
7月 8日（月）	第１回学年ライブ研修会 学年職員全員による授業研究会
7月27～28日	学びの共同体夏の研究会　２名参加 静岡県伊東市
9月 9日（月）	第２回学年ライブ研修会 学年職員全員による授業研究会
10月16日（水）	第３回学年ライブ研修会 学年職員全員による授業研究会
11月 6日（水）	第３回公開授業研究会 講師　スパーバイザー　武森　公夫先生 講師　スパーバイザー　馬場英顕先生 焦点授業　音楽　和太鼓　天野教諭
12月 9日（月）	第４回学年ライブ研修会 学年職員全員による授業研究会
1月11～12日	学びの共同体冬の研究会　４名参加 静岡県伊東市
1月21日（火）	第４回公開授業研究会 講師　スパーバイザー　馬場英顕先生 焦点授業　保健体育　バレーボール　奈良教諭 英語　比較級・最上級　上田教諭
2月10日（月）	全体協議会 今年度の成果と次年度の研究方針の検討
3月 3日（月）	全体協議会 次年度研究方針の確認 全体協議 次年度研究方針の確認

⑤　成果と課題

不登校生徒数は、取り組み当初と比較してほぼ１／５程度まで減少した。しかし、暴力行為やいじめの件数は、微増傾向にある。

暴力行為の内容を見ると生徒間でのトラブルが中心である。このことから、学び合い学習を通してお互いの思いを察し合い、相手のことを考えた発言等がしっかりと定着してないことが察しられる。

そこで、今年度からこの改善に向け、次のような「５つの心の育成」を視点とした取り組みをスタートさせた。

《５つの心の育成》
①我慢の心
・おしゃべりなどを我慢する
②思いやりの心
・相手の気持ちを考えて行動する
③好奇心
・何事にも興味関心を持って学ぶ
④感謝の心
・人やもの等に感謝する気持ちで行動する
⑤正直な心
・裏表のない正直な心で生活する

この５つの心を育成する切り口として一言もしゃべらないことを目標とした默動清掃に取り組んでいる。

本校が学び合い学習の取り組みを開始して３年目をむかえた。当初は、物珍しさと戸惑いの中で教師も生徒も試行錯誤の状態であった。

しかし、少しずつ子どもらの表情が明るくなり、分かったときにすばらしい笑顔を示す生徒達を見て先生方も手応えを感じはじめた１年目であった。

年度が改まり、人事異動により１／３の先生方が入れ替わることは、公立学校の宿命である。これにより、新たに着任した先生方に本校の取り組みを理解していただき、学び合いの授業が軌道にのるまでに数ヶ月が必要となる。これが授業改善を核にした学校改革の難しいところであることを痛感した２年目であった。

そして、３年目。この取り組みを３年間続けている先生、２年目の先生、初めての先生と経験年数が異なる方がいる状況となり、学びの質がなかなか高まらない状況が生じてきている。

この状況を変えていくためには、３年間取り組んでいる先生の卓越性がポイントとなる。

３年間の取り組みで、「こんなものでいいのでは」というような妥協が生じていないかを常に確認する必要がある。

一人ひとりの先生方がより質の高い学び求める意欲をこれからの公開授業や授業研究を通して模索していきたい。

「私たちの取り組みは、失敗しない。なぜならば成功するまでやめないから！」を合い言葉に全職員で頑張っていきたい。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
坂本　和良	帝京大学大学院教職研究科・教授	

昭島市立拝島第二小学校

研究テーマ	主体的に考え追究する子供の育成 ～環境教育の取組を通して～	
申請者	氏名又は名称	昭島市立拝島第二小学校
	代表者氏名	田中　淳志
	電話番号	042-541-1059
	FAX番号	042-541-7673
	アドレス	hainit01@city.akishima.ed.jp
	教職員数	22名
研究の実施場所	昭島市立拝島第二小学校	
研究・実践の内容、方法及び規模	1　内容 ・生活科・総合的な学習の時間を要とした環境教育についての学習指導を行った。 ・特別活動（学校行事や委員会活動）や日常活動における栽培活動等を全校的に取り組んだ。 2　方法 ・研究部会に、調査研究委員会（意識調査の実施）、授業等研究委員会（指導計画の見直し・作成、指導方法の工夫・改善、特別活動・日常的な活動）、地域連携研究委員会（地域教材の発掘、体験カリキュラムの開発）の３分科会を設定した。 ・全学年で研究授業を実施した。 ・地域の自然環境、企業、施設等を活用した。 3　規模　・平成25年11月７日に昭島市教育委員会研究指定校（２年次）として研究発表会を実施した。（朝日新聞に掲載された。） ・省エネ活動優秀賞（昭島市教育委員会）を受賞した。 ・平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受けた。 ・平成25年度東京都教育委員会表彰（団体）を受けた。	
公共団体等からの助成の有無及び実績	1　昭島市教育委員会：38万円 2　帝京大学教育共同研究補助制度（八王子キャンパス企画室）：10万円 3　JATA日本旅行業者協会：10万円 4　公務員弘済会：５万円	
実施期間	平成25年４月１日から平成26年３月31日まで	
研究費用の総額	63万円	
補助金交付申請額	10万円	

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
石 橋　昭	帝京大学大学院教職研究科・教授	
坂本　和良	帝京大学大学院教職研究科・教授	
小関　禮子	帝京大学大学院教職研究科・教授	

① 研究テーマ	
主体的に考え追究する子供の育成 ～環境教育の取組を通して～	
② 学校名	昭島市立拝島第二小学校
学校長名	田中　淳志

③ 研究のねらい

(1) 学習指導としてのねらい
・児童が自ら追究する力を育てる環境教育についての学習指導の工夫・改善する。
・地域と連携した体験活動を重視した児童が主体的に追究する環境教育を実施する。

(2) 環境教育の推進としてのねらい
・地域環境を生かした環境学習を実施することで、身近な問題として、地球温暖化防止等の環
・境保全を考え実践する。
・身近な環境に親しむことで、自然のよさや素晴らしさを感じ、大切にする気持ちを育てる。
・将来、主体的に環境保全や環境維持に寄与・貢献できる人材として育成すべき基礎を培う。

④ 研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）

実施日	内容や経過
(1) 学習指導としての研究	
① 4月 4日	各分科会からの提案・説明
② 5月22日	研究授業　２年　生活科「めざせ　野さい名人」 講師：昭島市教育委員会教育研修室元研修担当　木村 脩司 先生
③ 5月29日	研究授業　４年　総合的な学習の時間「知ろう！知らせよう！玉川上水」 講師：昭島市拝島第三小学校元校長　長谷川 由利子　先生
④ 6月11日	研究授業　６年　総合的な学習の時間「歴史・文化・自然『探検　ザ　日光』」 講師：昭島市教育委員会教育指導課統括指導主事　稲冨 泰輝　先生
⑤ 6月19日	学習会　環境教育の充実に向けた取組の理解と実践 講師：東京都教職員研修センター専門教育向上課 指導主事　新井　しのぶ　先生
⑥ 6月26日	研究授業　５年　総合的な学習の時間「自然とともに」 講師：東洋大学文学部教育学科教授　寺木 秀一　先生
⑦ 7月19日	研究分科会・学習会　生活指導案検討と指導の進め方 講師：　昭島市立玉川小学校元校長　依田 雅枝　先生
⑧ 7月23日	学習会
⑨ 8月28日	研究分科会

⑩ 9月 3日	研究授業　１年　生活科「おおきくなあれ」 　講師：新宿区教育委員会教育支援課指導主事　波多江 誠　先生 研究授業　３年　総合的な学習の時間「生き物と命～小さな生き物たち～」 　講師：昭島市拝島第三小学校元校長　長谷川 百合子　先生
⑪10月 9日	研究分科会
⑫11月 7日	研究発表会
⑬11月27日	２年次研究のまとめ
⑭12月11日	２年間の成果と課題
(2) 環境教育の推進としての研究	
① 3月～ 4月	Ａ自然・生命に関する内容から地球温暖化防止につなげる活動 「1000㎡の菜の花畑　～昭島市環境コミュニケーションセンター（ごみ対策課）との連携～」 ・１年児童が菜の花の種を蒔き、きれいな菜の花畑を作り、地域住民を楽しませた。
②通年	「校庭や近隣地域の樹木・草花、校内ビオトープの観察　～学校及び地域環境を活用した環境学習～」 ・校庭の樹木やビオトープの観察により、身近な自然環境に対する興味・関心を高めた。 ・手作りビオトープを完成させ、植物や自然の中で生きる動物（チョウ、カブトムシ、ヤゴ、野鳥等）の観　察と様子を学んだ。
③ 6月13日	「校庭全面芝生じゅうたん活動　～芝生の維持・管理と学校緑化活動の推進 ～」 ・全校縦割り活動で、3000ポットの苗作りと芝生の補植をした。 ・自分たちだけでなく、地域の社会体育団体等にも、芝生の校庭での活動を楽しんでもらっている。
④ 5月～ 6月	「カルガモを見守って（今年度のみ）　～本校にやってきたカルガモを教材にして～」 ・校地内の池でカルガモが卵を産み、雛がかえるまで学校の児童や教職員で細心の注意を払いながら見守った。 ・雛がかえり、親ガモと７羽の小ガモが横断歩道を渡り、近隣を流れる玉川上水に戻るまで見送った。
⑤ 5月～ 8月	「緑のカーテンをつくろう　～校舎南側一部と講堂東側への延べ幅35mの緑のカーテン＋飼育小屋の緑のカーテン～」 ・環境委員会児童を中心に、ヘチマ・ゴーヤ・ヒョウタン等のカーテンをつくり、緑いっぱいの学校にした。 ・講堂のカーテン裏に「涼しみスペース」が確保できた。飼育小屋は他より８℃低く、動物が過ごしやすい環境ができた。
⑥ 6月～ 7月	「一人一鉢栽培活動　～464鉢の花（春バージョン：ペチュニア、ロベリア、ナデシコ、ベコニア等６種類の花）～」 ・継続した毎朝の一人一人の水やりは、挨拶運動に広がり、学校の活気を高めた。 ・10日間、昭島市役所玄関とJR拝島駅に100鉢ずつ、また、近隣企業にも飾り、通る人に楽しんでもらった。
⑦ 7月	「アサガオロードで挨拶しよう　～１年生活科の取組を全校で楽しむ～」 ・校門から昇降口近くまで、児童が育てたアサガオを並べ、児童が朝の挨拶を交わし合う活動を行った。

⑧ 5月～ 9月	「ヒマワリ迷路で遊ぼう（6000本のヒマワリ畑）　～昭島市環境コミュニケーションセンター（ごみ対策課）との連携～」 ・１・２年児童が、近隣公園でヒマワリの種を蒔き、6000本のヒマワリで迷路をつくった。複数新聞への掲載もあり、本校児童の他、地域住民がヒマワリ迷路を楽しんでもらった。 ・ヒマワリの種は、近隣の保育園児や地域住民に配布すると共に、来校者にプレゼントした。
⑨11月～ 1月	「大きなカボチャ ～昭島市環境コミュニケーションセンター（ごみ対策課）との連携～」 ・２年児童が大きなカボチャの種を蒔き、育てたカボチャでかざりを作った。学校内外に飾り、地域の人を楽しませた。 ・カボチャのつるとマツボックリ等の実、ペットボトル等廃材を利用してリースを作り、飾った。
⑩12月～	「ドングリからコナラの木を育てよう　～昭島市環境課との連携～」 ・１・２・３年児童が、市主催「冬の原っぱ大会」に参加し、ドングリを埋め、コナラの苗を育てている。
⑪ 5月～ 1月	「地域美化活動　～昭島市環境課（一部）との連携～」 ・２年児童が、近隣の街路にプランターを使って花を飾り、ゴミのない地域美化活動を行った。 ・学年ごとに地域の一斉清掃を行い、環境美化及びゴミの減量に取り組んでいる。
⑫通年	「節電の取組　～今、私たちにできること～」 ・学校中の電気スイッチに６年児童が節電カードを貼り、省エネ活動に取り組んだ。（市教委・省エ ネ活動優秀賞受賞）
⑬11月～	「近隣企業と環境を守る取組　～近隣10企業訪問による環境対策の努力について理解と取り入れられる実践～」 ・近隣企業の環境対策について調べ、地球温暖化防止策の工夫・努力について知った。 ・自分たちにできることを考え、環境保全・維持に努力していく取組を実践する。

⑤　成果と課題

1　成果

(1) 学習指導としての研究

〈成果〉

①体験的な活動を充実・深化させ、問題意識の掘り起こしにつなげた。

②学習計画表を発達段階に応じたものに改善し、系統性を明確にし、さらに見通しをもって学習に取り組ませるようにした。

③追究を充実させるために、中間発表の形態を工夫し、学び合いを通して児童の気付きを喚起した。

④評価の方法を工夫し、評価基準を基に多様な方法で児童を評価することで、児童の成長を見取るとともに、個の課題を見付け、指導に生かした。

〈課題〉

①児童が、季節の変化をより一層感じることのできる取組を全学年で推進するとともに、多様な学習対象を開発・提供していく。

②児童の発達段階に即した海、山、川、動物などが抱える問題について、教師から各教等と関連させながら定期的に情報提供を行うなど、さらなる環境教育の指導体制の整備を進める。

(2) 環境教育の推進としての研究

〈成果〉

①児童一人一人が、環境問題を身近な問題として考えるようになった。

②「緑いっぱい・植物いっぱい」の活動により、植物を育てる実践よりよい自然環境をつくる実践を楽しむ態度を育てることができた。

③「緑いっぱい・植物いっぱい」の活動で、地球に優しい環境づくりをしていることの自覚を意識できるようになった。

④校庭芝生化３年目となったが、今後も継続する捕植等作業により、大切に芝生を使おうとする意識が徐々に高まっている。

⑤地域住民への芝生の校庭貸出も行い（地域貢献)、自分たちが苗を育て、補植した芝生の校庭で楽しんでもらっている。

⑥緑のカーテン活動では、その涼しさ効果に、今後の取組継続と節電の工夫策について、意識を高めることができた。

⑦緑のカーテンでは温度低下だけでなく、様々な植物が実り、収穫の喜びを味わった。活動効果を地域に発信していく。

⑧育てた一鉢花をJR拝島駅や市役所正面玄関等に飾り、地域の方々から感謝の言葉をいただき、地域の緑化・美化活動への貢献意欲を高めた。

⑨全校児童464名の一鉢栽培活動で、地域に住む多くの人を楽しませたり、自然を中心とした豊かな環境を作っていく大切さを伝えられたりした。

⑩毎年、１年児童がアサガオを育てている。継続して育てられたことを全校児童で喜び合うことができた。

⑪昭島市環境コミュニケーションセンターと３年前から相談を進め、環境教育活動を連携・協力の下、継続して実施する体制が整ってきた。

⑫昨年度に引き続き、今年度も新聞掲載された6000本のヒマワリ迷路は、児童にとって大きな喜びを感じる活動となった。

⑬ヒマワリ迷路で、植物を育てることで、自分だけでなく他の人たちにも楽しさや喜びを与えることができた。

⑭連携により、大きなカボチャ、1000㎡の菜の花畑等、学校の力だけではできない大きな感動体験が得られる取組が実施できた。

⑮校庭や近隣地域の樹木・草花、校内ビオトープの観察を通して、身近な自然環境について関心を高める児童が増えた。

⑯水やりや草取りを夏季休業中も含めて毎日継続することで、成長しいく様子に生命の大切さを実感できるようになった。

⑰２年目となる学校中の電気スイッチへの節電カード貼付により、児童の省エネへの意識が向上し、家庭でも実践する児童が増えた。

⑱数年間継続している一斉清掃美化活動により、物を大切にする気持ち、ゴミ減量の意識をもって生活できるようになってきた。

⑲近隣企業訪問により、環境対策の努力について理解を深め、より広く環境について考えていくことができるようになってきた。

⑳学校の特色ある教育活動である環境教育がPTAの関心へと広がり、教員と保護者の希望者で「市の森林教室」に参加することができた。

〈課題〉
①今年度実施した活動実践は、すべて活動を次年度も継続して実施する。
②地域の施設や地域人材を活用し、より効果を高める方法を工夫し、体験的な活動による環境教育を推進する。
③地域教材の開発や地域人材の発掘をさらに行い、教員の環境教育に関わる研究及び研修を充実させ、児童の環境に対する関心を高めていく。
④新たな活動を発掘し、無理のない範囲で活動を広げていく。
⑤地球温暖化防止を目指し、日々の生活の中で自分たちが実践できることを継続するよう指導する。
⑥保護者や地域の地球温暖化防止の意識を高め、家族や地域で環境保全・維持の実践できるようにする啓発に努める。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
石 橋　昭	帝京大学大学院教職研究科・教授	
坂本　和良	帝京大学大学院教職研究科・教授	
小関　禮子	帝京大学大学院教職研究科・教授	

八王子市立由木中学校

研究テーマ	・学校行事での主体的な活動を通し、生徒間のコミュニケーション能力を育成する。	
申請者	氏名又は名称	八王子市立由木中学校
	代表者氏名	渡辺　一彦
	電話番号	042-676-8120
	FAX番号	042-677-0208
	アドレス	yugij@hachikji-school.ed.jp
	教職員数	27名
研究の実施場所	本校の教室など	
研究・実践の内容、方法及び規模	①当該の教育実習生は、第２学年の社会科を担当し、合わせて２年３組の学級経営を担任を補佐しながら行わせる。 ②10月下旬の合唱祭、12月初旬の都内遠足、３学期の修学旅行の取り組みなどで、生徒が活動の意義を理解して目標や活動の内容を主体的に考えて決められるように指導方法の工夫・改善を行わせる。	
公共団体等からの助成の有無及び実績	・特にございません。	
実施期間	平成25年４月１日から平成26年３月31日まで	
研究費用の総額	100,000円	
補助金交付申請額	100,000円	

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
澁澤　文隆	帝京大学大学院教職研究科・教授	

① 研究テーマ	
・学校行事での主体的な活動を通し、生徒間のコミュニケーション能力を育成する。	
② 学校名	八王子市立由木中学校
学校長名	渡辺　一彦
③ 研究のねらい	
ア－学校行事の意義やクラスの目標、活動などを話し合わせながら、自分たちで決めたことを主体的に取り組む活動の中で生徒間のコミュニケーション能力を育成する。 イ－当該の実習生は、生徒への指導方針などを担当教員と事前に打ち合わせ、生徒の話し合いや主体的な活動などの場面で生徒間のコミュニケーション能力を具体的に育成する。	
④ 研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）	
実施日	内容や経過
①毎週水曜日	・２年３組の朝学活及び終学活に参加した。なお、他の１組、２組、４組の学活にも学年主任と担任に事前に相談してできるだけ参加した。 ・学活では、生徒への指示伝達や生徒からの報告などを受けた。出勤した日には毎回各クラスの学活に行き、合計で約30日程度であった。
②毎週水曜日	・出勤した日にはほぼ毎回、野球部やソフトテニス部の部活動に参加し、顧問と一緒に活動した。顧問が生徒への指導を行った際は、よくサポートした。
③10月15日㈫ ～10月18日㈪	・第２学年の社会科授業で、地理分野「近畿地方」の内容について指導案を作成して授業研修を実施した。（授業時数－５時間）

⑤ 成果と課題
１．指導担当教員から指示されたことはきちんと実施したが、経験や知識面からまだ自主的に動くことはできない。平成26年度は、自分の計画や考えを実際に試す場として学校での研修を有効に活用してほしい。 ２．生徒への説明や伝達の場面で、要点を押さえ簡潔に行えるとさらによい。何度繰り返して話しても、要点をきちんと押さえておかないと生徒も不安になるので、先輩教員の姿から身に付けさせたい。 ３．社会科の教科指導では、地理分野で授業実践を行った。授業は指導計画に基づいて一通り終えたが、授業者としての「ねらい」がまだ不明確のままで授業を行っている。まず、「本時のねらい」を定め、導入の工夫や自らの指導の展開についてさまざまなパターンを研究することも必要だと感じる。指導方法にさらに工夫する必要がある。

４．野球部やソフトテニス部などの部活動に参加したが、自分から積極的に生徒の輪の中に入る場面が少ない。生徒の中に入って、生徒の様子をじかにとらえて指導できるようにさせる。

５．今後の課題
① 公立学校教員としての児童・生徒との接し方について、先輩教員の例なども示しながら丁寧に指導し、実習生の知識と経験を豊かにさせる。
② 生徒間のコミュニケーションを活発に促すための工夫について、学校行事や普段の学校生活の場面を適切に活用させながら経験を積ませる。
③ 実習生への過度の負担にならないように十分配慮しながら、学校行事や諸活動で実習生の役割を工夫し、他の教員と連携しながら生徒指導を行う場面をさらに工夫する。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
澁澤　文隆	帝京大学大学院教職研究科・教授	

多摩市立永山小学校

研究テーマ	「自分の考えをもち、互いに伝え合える児童の育成」 ～言語活動の充実を通して～	
申請者	氏名又は名称	多摩市立永山小学校
	代表者氏名	校長　岡　　芳 弘
	電話番号	042-371-4171
	FAX番号	042-337-7632
	アドレス	多摩市永山２－８－１
	教職員数	25名
研究の実施場所	多摩市立永山小学校	
研究・実践の内容、方法及び規模	○児童の「話す力」と「聞く力」を高めるため、国語科の読む領域において、児童が互いに自分の考えを伝え合う言語活動に焦点をあてた研究授業を行う。 ○言語能力の目標を明確にし、日常における指導を充実するため、「言語能力表」を作成し、言語能力検定を行う。 ○児童の「読む力」を高めるため、課題図書に焦点をあてた読書旬間を行い、認定証を発行することで、読書活動の充実を図る。	
公共団体等からの助成の有無及び実績	・東京都言語能力向上推進事業指定校（平成23～25年度） ・多摩市公立学校研究奨励校（平成24・25年度）	

実施期間	25年４月１日から26年３月31日まで
研究費用の総額	10万円
補助金交付申請額	10万円

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
中田　正弘	帝京大学大学院教職研究科・教授	
小山　惠美子	帝京大学大学院教職研究科・教授	
砥抔　敬三	帝京大学大学院教職研究科・教授	
清水　静海	帝京大学教育学部・教授	

①　研究テーマ	
「自分の考えをもち、互いに伝え合える児童の育成」 ～言語活動の充実を通して～	
②　学校名	多摩市立永山小学校
学校長名	岡　　芳 弘
③　研究のねらい	
○言語活動の充実を図ることにより、言語能力を向上させ、思考力・判断力・表現力を育成する。 ・国語科の読む領域において、児童が互いに自分の考えを伝え合う言語活動に焦点をあてた研究授業を行うことを通し、授業力の向上を図る。 ・「言語能力表」を作成し、言語能力検定を行うことを通し、言語能力の目標を明確にし、日常における指導を充実させる。 ・課題図書を設定した読書旬間を行い、認定証を発行することを通し、読書活動の質と量の充実を図る。	
④　研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）	

実施日	内容や経過
4月20日	研究全体会　研究組織の確認 分科会　研究主題・研究内容・児童の実態と児童像・研究教科の検討
5月 9日	研究全体会　研究主題・研究教科の確認 分科会　研究授業の授業者、日程の検討
5月14日	研究打合せ　研究の進め方について（校長、副校長、研究主任、佐藤） 講師　帝京大学大学院教職研究科教授　　小山　惠美子先生
6月 5日	研究授業　第３学年 「イルカのねむり方」　授業者　　佐藤　智昭 講師　帝京大学大学院教職研究科教授　　小山　惠美子先生
8月27、29日	指導案検討　２学期の研究授業、授業観察の授業についての指導 講師　小山先生、砥抔先生、清水先生
10月16日	研究授業　第１学年 「じどう車くらべ」　授業者　　佐藤　まどか 講師　帝京大学大学院教職研究科教授　　小山　惠美子先生
10月30日	研究授業　第５学年 算数「分数のたし算とひき算」 授業者　鈴木、箕輪、勝田 講師　帝京大学教育学部教授　清水　静海先生

11月 8日	研究授業	特別支援学級　生活単元学習「秋まつりをしよう」 授業者　久保、居村、齋藤 講師　帝京大学大学院教職研究科教授　　砥抔　敬三先生
11月27日 月　日	授業観察 授業観察 授業観察	第３学年 図工「くぎ打ちトントン」 授業者　芦川　　講師　小山先生 第６学年 国語「言葉は動く」 授業者　真　　講師　中田先生 第４学年 国語「アップとルーズで伝える」 授業者　宮川　講師　中田先生
12月13, 19, 24日	指導案検討	研究発表会の指導案についての指導 講師　小山先生、清水先生、砥抔先生
1月20日	研究打合せ	研究発表会におけるパネルディスカッションの内容と方法 講師　中田先生、小山先生、砥抔先生
2月 7日	研究発表会	・東京都言語能力向上推進事業指定校（平成23～25年度） ・多摩市公立学校研究奨励校（平成24・25年度）

⑤　成果と課題

1　今年度の成果

○　授業の展開の中に、「交流」の時間を入れることで、友達の考えをよく聞こうするようになった。全体の場でも、緊張せずに自分の考えを伝えられるようになった。

○　「交流」で、友達の意見を聞くことで、自分の考えに自信がなかった児童も、自分の意見に自信がもてるようになり、友達の意見を参考に修正をするなど表現力がついた。

○　聞く力・話す力のレベル表があることで、自分の考えと比べながら聞くこと、自分の意見とその理由を言うこと、言葉づかいに気をつけて話すこと等、思考力を深めることができた。

○　交流活動を、教科の特性や単元に合わせた活動として工夫を行うことで、言語活動の充実を図ることができた。

2　今後の課題

○　自分の意見を深め、広げる「交流」活動を行うためには、困った時や分からない時に気軽に話し合える雰囲気がある集団作りが大切である。

○　共通点や相違点を比べたり、関係付けたりしながら自分の考えが深まるような「高めあう交流」にするために、既習事項を振り返り活用できるような指導・支援が必要である。

○　「交流」の前の“一人で考える”時間を十分にとり、考えをもたない児童がいないよう支援する。

○　「交流」を深めるために、ねらいや学年の発達段階、学級の実態に応じた適切な人数にすることが大切である。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
中田　正弘	帝京大学大学院教職研究科・教授	
小山　惠美子	帝京大学大学院教職研究科・教授	
砥抔　敬三	帝京大学大学院教職研究科・教授	
清水　静海	帝京大学教育学部・教授	

八王子市立大和田小学校

研究テーマ	自分の考えを豊かに表現できる子の育成 ～「書くこと」と読書活動を通して	
申請者	氏名又は名称	八王子市立大和田小学校
	代表者氏名	校長　宍戸　武昭
	電話番号	042-644-5777
	FAX番号	042-646-7165
	アドレス	d351301@city.hachioji.tokyo.jp
	教職員数	23名
研究の実施場所	八王子市大和田町４-19-１　八王子市立大和田小学校	
研究・実践の内容、方法及び規模	研究テーマの下、国語科の各領域の学習で児童の実態や課題の分析把握を行い、書くことの活動と読書活動の充実を図るため、全学年で研究授業を実施する。また、研究担当主幹を中心に研究推進委員会を設置し、低・中・高学年分科会の組織により全職員で研究を進める。	
公共団体等からの助成の有無及び実績	平成22．23年度八王子市教育委員会研究指定校 「考え、表現する力の育成～国語科「読むこと」の学習を通して」 平成25．26年度八王子市教育委員会研究指定校	
実施期間	平成25年４月１日から平成26年３月31日まで	
研究費用の総額	100,000円	
補助金交付申請額	100,000円	

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
小山　恵美子	帝京大学大学院教職研究科・教授	

①　研究テーマ	
自分の考えを豊かに表現できる子の育成 ～「書くこと」と読書活動を通して	
②　学校名	八王子市立大和田小学校
学校長名	宍戸　武昭

③　研究のねらい

平成22. 23年度八王子市教育委員会研究指定校として、国語科の「読む」領域において児童の考える力や表現する力の伸長を図ってきた。しかし、書く力を伸ばし文章や言葉で表現する力をさらに高めることは大きな課題である。

そこで、言語活動の充実を進めながら言葉の力を高め、特に、書くことに関する活動と言葉を豊かにする読書活動を重点に研究を進める。

(1)　国語科を中心に書く力を高め、習得した知識・技能を活用し、よく考え、判断して自分の言葉で表現できる児童の育成を図る。特に、国語科の授業研究を進め、紹介分、説明文、意見文、ワークシート等の幅広い書く活動と読書活動を通して、言語活動の充実を図る。

(2)　全校俳句作りや言葉の授業などを通して、豊かな言葉の力をはぐくむ言語環境を高めるとともに、図書室整備などにより読書環境を充実する。

④　研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）

実施日	内容や経過
4月17日	・今年度の研究計画について：内容、方法の協議、日程の確認
5月29日	・年間講師による指導：主体的な活動を促すための書く活動の成立要件について、及び言語活動での読書との関連について検討、協議
6月26日	・研究授業６年２組国語科「パネルディスカッションをしよう」論理的な発表のための関連資料や情報の活用、課題を明確にするワークシートの工夫
7月17日	・研究内容について、及び夏季研修の課題の確認
8月 1日	・夏季研修会：講師による指導；「ことばの学び」について、単元を貫く言語活動の工夫、ワークシート（バタフライマップ）の工夫などの検討、協議
9月 4日	・俳句研修会：講師による指導及び６年生への指導の実際
10月 9日	・研究授業２年２組国語科「わにのおじいさんのたからもの」言語活動⇒へんしんしてオリジナル絵本を作ろう。登場人物になりきった絵本の作成、並行読書の実施
11月27日	・研究授業３年２組国語科「くらしと絵文字」言語活動⇒絵文字を作って掲示しよう。創作絵文字と説明文の作成、並行読書の実施
12月11日	・研究授業１年２組国語科「はたらくじどう車」言語活動⇒じどう車紹介カードをつくって発表しよう。自分の紹介したい自動車の紹介文の作成、関連図書の活用
1月31日	・研究授業５年１組国語科「まんがの方法」言語活動⇒効果的に発表しよう。プレゼンテーションソフトを使った発表、課題追求や発表のための資料、情報の活用
2月26日	・研究授業４年２組国語科「便利ということ」言語活動⇒ポスターセッションで伝えよう。ミニポスターの作成とポスターセッションの実施、関連読書や資料の検索
3月12日	・今年度の研究のまとめ：成果と課題について協議

⑤　成果と課題

成果

(1)　言語活動の充実を図る取り組みから

単元を貫く言語活動の工夫により、学習のまとめの言語活動のモデルを示すことで、児童は見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。言語活動の特徴や単元の目標との結びつきを捉えることにより、話し合いの目的意識や、作品などの創作意欲を高めることができた。

低学年：単元を貫く言語活動の工夫により、児童が自分の作品をしっかりと作ることができ、意欲を高めることができた。

中学年：書く活動を段階的、系統的にとらえることができるとともに、ロジカルシンキングシートなど、単元を貫く言語活動に沿った工夫ができた。

高学年：プレゼンテーションやパネルディスカッションなど多様な表現方法の中で、書く活動を工夫す　ることができた。

(2)　豊かな言葉の力を高める取り組みから

ア　全校俳句作り

４月から（１年生は５月から）毎月、全学級で俳句作りを行った。季節の言葉を知り、言葉のリズムを考えながら、見たことや感じたことを五七五にまとめた。継続した俳句指導により94％の児童が、「俳句作りは楽しい」と意欲を高めることができた。

イ　言葉の働きを学ぶ

言葉にかかわる各種専門家を招聘し、言葉遊びの楽しみや、読み聞かせと音読指導、多様な表現方法などを研修し、児童の指導の実際も学ぶことができた。講師による言葉の授業では、言葉の広がりや深まりを実感し、言葉の楽しさを味わうことができた。

(3)　読書活動の工夫

単元を貫く言語活動に沿って、関連図書や資料、図鑑、インターネットなどの情報の活用ができた。また、読書教材と出会う並行読書により、児童の意欲を持続し、高めることができた。

課題

国語科における各領域において言語活動の充実を図ってきたが、次のような課題がある。

(1)　単元を貫く言語活動の充実

単元を通して行っていく言語活動の内容を整理し、段階的に取り上げていくことにより指導内容の重点化をさらに進めることが必要である。また、書く活動と読みとの関連など、各領域での位置づけや関係性を明確にしたい。

(2)　言語活動における評価の工夫

児童の論理的な思考をはぐくむため、特に、書く活動における評価方法や評価規準の設定と具体的な指導や支援を明確にすることが重要である。

(3)　読書活動の充実

教材文の理解を深める並行読書や関連図書資料の効果的な活用を進めるとともに、読書環境や読書生活の向上を図ることが必要である。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
小山　恵美子	帝京大学大学院教職研究科・教授	

日野市立南平小学校

研究テーマ	基礎・基本の定着を目指して ～算数科にお開ける発達段階に応じた指導方法の工夫～	
申請者	氏名又は名称	日野市立南平小学校
	代表者氏名	校長　松永　式子
	電話番号	042-592-2021
	FAX番号	042-592-2022
	アドレス	school@e-minamidaira.hino-tky.ed.jp
	教職員数	40名
研究の実施場所	日野市立南平小学校	
研究・実践の内容、方法及び規模	●研究授業年間８回。　研究の方向性全体確認及び分科会での研究会。指導案検討。成果と課題による紀要作成。来年度の研究方向性の提案。 ●年間講師……２名（帝京大学特任教授　廣田敬一先生、千葉大学教授　島田和昭先生） ●校内研究関係講師……明星大学准教授　小貫悟先生、前日野市立潤徳小学校長　宮崎芳子先生、日野市教育センター　櫻井秀和先生 ●その他……全世田谷区立烏山小学校長　宮田利幸先生、日産自動車　田母神昭様、中央大学陸上部コーチ　井原直樹様・伊藤友広様	
公共団体等からの助成の有無及び実績	日野市教育委員会よりの研究費年間７万円	
実施期間	平成25年４月１日から平成26年３月31日まで	
研究費用の総額	17万円	
補助金交付申請額	10万円	

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
矢野　英明	帝京大学大学院教職研究科・教授	

①　研究テーマ	
基礎・基本の定着を目指して ～算数科にお開ける発達段階に応じた指導方法の工夫～	
②　学校名	日野市立南平小学校
学校長名	松永　式子

③　研究のねらい

昨年度、算数科における基礎・基本の力を伸ばすべく、「基礎・基本の定着を目指して～活用できる力を付けるために～」の研究を行った。既習の知識や技能を学習や生活の場面で活用できるようにするために、まずは基礎・基本となる力を付けることを目指した。指導法の工夫、学習形態の工夫、教材・教具の工夫、ノート指導や板書の工夫などに取り組んだが、年度末の反省では、「まだ全員に基礎・基本の力が十分に付いているとは言えないのではないか」という反省が多く出された。確かに、日々の授業の中でも、テストの結果を見ても、基礎・基本の力が十分に身に付いていないために正答を導くことができない児童がいた。

また、年度末に行った都算研のテストの分析では、基礎的・基本的な知識や技能はある程度定着していても、それらを活用して思考・判断・表現する問題や、文章題、記述式の問題などは苦手な傾向があることが分かった。

今年度の研究を進めるにあたり、基礎・基本の定着にまだ課題が残っていることから、昨年度に引き続き「基礎・基本の定着を目指して」というテーマを設定した。そして、確実に基礎・基本を定着させるために、各学年の発達段階に応じた指導法の工夫を重点とした。

さらに、日野市全体で取り組んでいる「ユニバーサルデザイン」の考えも研究に取り入れることとした。基礎・基本を確実に定着させるための授業を組み立てる際に、児童のつまずきを事前に予測し、つまずきに対する支援や手立てをしっかりと準備することが必要であると考えた。そこで、授業中の支援や手立てを、共有化、身体性の活用、視覚化、スモールステップ化などのユニバーサルデザイン化の視点から見て整理することも、研究の重点とすることにした。

④　研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）

実施日	内容や経過
4月 3日（月）	●新年度計画　基本提案確認
4月24日（水）	●全体会、今年度の研究の方向性の共通理解 ・校内組織の決定　　・授業内容、時期の決定 ・各ブロックのテーマ、目指す児童像や授業手立て等の話し合い
5月22日（水）	●模擬授業　４年「異分母分数の加減の導入」 （授業・講師：島田和昭先生）
5月24日（金）	●ユニバーサルデザイン研修会 （講師：小貫　悟先生）
6月19日（水）	●研究授業①　４年「四角形をつくろう」 （講師：廣田敬一先生）
7月11日（木）	●授業研究　全学年体育「短距離」 （講師：伊藤　友広様・井原　直樹様
9月18日（水）	●研究授業②　２年「水のかさをはかろう」 （講師：島田和昭先生）
10月30日（水）	●研究授業③　図画工作「音　⇄形」 （講師：櫻井秀和先生）
11月27日（水）	●研究授業④　６年「およその面積」 （講師：島田和昭先生）
12月11日（水）	●研究授業⑤　４年「記録を見やすく整理しよう」 （講師：小貫　悟先生）
12月20日（金）	●授業研究　５年社会「工業生産を支える人々」 （講師：田母神　昭様）
12月26日（木）	●授業力向上研修①　外国語活動 ●授業力向上研修②　（講師：野口芳宏先生）

1月29日（水）	●授業研究　４年社会「世界とつながる東京」 （講師：宮田　利幸先生）
1月29日（水）	●実践報告　つくし学級「発達課題を通した文章問題への取組」 （講師：前日野市立潤徳小学校長　宮崎芳子先生）
2月 5日（水）	●管外研修報告（新潟県上越市立大手町小学校） ●今年度のまとめと来年度の方向性について

⑤　成果と課題

【成果】

・具体物や半具体物を用いた操作活動は、実感を伴った理解や基礎的な思考力の育成に有効であった。一方、算数ソフトなどのICTを活用した手だても、要点を視覚的にたらえたり、既習を効果的に復習したりする際に有効であった。
・見通しをもたせたり見当をつけたりすることは、根拠をもって筋道立てて考えることを促し、思考力の育成に効果があった。
・抽象的な思考を高めるためのステップとして、具体物の操作、図、グラフ、数の置き換えなど、具体的な思考や表現の方法を指導することが有効だと分かった。苦手な児童も、これらの個に応じた手立てにより、理解を深めることができた。また、その際、児童に必要な４つの能力（言語理解、知覚推理、ワーキングメモリー、処理速度）に応じて支援することが有効だった。
・板書とノートを対応させると、児童の作業が円滑になり、理解もしやすくなった。
・学習プリントを用意して教室に常備するなどして継続的に取り組ませた結果、知識・技能の定着率が大いに高まった。

【課題】

・算数ソフトのみでは、体験不足となる。具体的な操作活動とICTの手立てを組み合わせて指導することにより、より効果的な授業ができるようにする必要がある。
・多様な思考・表現の方法を具体的に指導し、児童がそれを用いて自ら考え、表現できるようにする必要がある。
・「南平小スタンダード」をもう一度整理し、ノート・板書の必要項目を整理し、全校で統一して系統的に指導できるようにする必要がある。
・全校で統一して、一定量の学習プリントを継続的に取り組むようにし、知識・技能の定着をさらに高める必要がある。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
矢野　英明	帝京大学大学院教職研究科・教授	

町田市立小山田南小学校

研究テーマ	主体的に学びに向かう児童の育成 ～言語活動の充実を通して～	
申請者	氏名又は名称	町田市立小山田南小学校
	代表者氏名	松本　啓吾
	電話番号	042-797-4541
	FAX番号	042-797-1845
	アドレス	e-oyamadaminami-vp@machida-tky.ed.jp
	教職員数	30名
研究の実施場所	町田市立小山田南小学校	
研究・実践の内容、方法及び規模	①　低学年ブロック、中学年ブロック、高学年ブロック、特別支援ブロックに別れ、それぞれ研究主題に合わせたサブテーマを決め研究を進めていく。 ②　一人の講師に継続して指導を受け、一貫した系統性のある校内研究を進める。各分科会ごとの研究授業では、事前研究の段階から、講師の方と指導案の検討をする。 ③　授業が主体となるよう研究授業を行う。（事前授業も含めて、すべて公開し、授業を見る機会を多くする。（研究授業学年一回以上） ④　朝の学習時の読み聞かせボランティアによる読み聞かせ	
公共団体等からの助成の有無及び実績	市からの講師料助成あり	
実施期間	2013年４月１日から2014年３月15日まで	
研究費用の総額	146000円	
補助金交付申請額	100000円	

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
高 橋　　勝	帝京大学大学院教職研究科・教授	

①　研究テーマ	
主体的に学びに向かう児童の育成 ～言語活動の充実を通して～	
②　学校名	町田市立小山田南小学校
学校長名	松本　啓吾

③　研究のねらい

本校の児童の実態を話し合う中で、基礎基本的な「学習が十分定着していない児童が少なくない事が課題として浮かび上がった。そして、その前提として、「人の話を最後まで聞く事ができない。」「正しい言葉遣いができない。」「思いを自分の言葉で伝えることができない。」など、聞く、話す力がどれだけ身についているかで、差が大きくなっている実態があった。そこで国語科を中心にして、言葉を使った活動を授業の中で効果的に多面的に取り入れることで、しっかり聞く力や伝わるように話す力を付け、基礎的基本的菜学習を積み上げ、児童が進んで課題を解決し、豊かな人間関係を築けるようにする。

④　研究・実践の内容及び経過（できるだけ具体的に）

実施日	内容や経過
①　4月10日	①　今年度の研究について 分科会内の児童に実態・分科会研究について
②　5月 1日	②　講演【主体的に学びに向かう児童の育成～言語活動の充実を通して～】 教材単元への取り組み　～その構想～ 講師　元千代田区立錦華小学校校長　栗岩　英雄先生
③　6月12日	③　研究授業　５年２組　筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表する。 【生きものは円柱形】 講師　元千代田区立錦華小学校校長　栗岩　英雄先生
④　9月13日	④　講演【研究活動の基本的な姿勢について】 講師　元千代田区立錦華小学校校長　栗岩　英雄先生
⑤　10月30日	⑤　研究授業　３年１組　説明の仕方を考えよう　【すがたをかえる大豆】 講師　元千代田区立錦華小学校校長　栗岩　英雄先生
⑥　11月13日	⑥　研究授業　４年２組　理科　「ものの体積と温度」 指導室訪問
⑦　11月27日	⑦　研究授業　２年３組　読んで、説明のしかたを考えよう【しかけカードの作り方】 講師　元千代田区立錦華小学校校長　栗岩　英雄先生 研究授業　１年２組　くらべてよもう【じどうし車くらべ】 講師　元千代田区立錦華小学校校長　栗岩　英雄先生
⑧　1月29日	⑧　研究授業　特別支援学級　【読んでやってみよう】 講師　元千代田区立錦華小学校校長　栗岩　英雄先生
⑨　2月26日	⑨　研究のまとめ　次年度の研究について
⑩　年間と通して	⑩　毎週木曜日８時30分～８時45分まで【読み聞かせ】の時間 ※各クラス　１名から３名の保護者や地域ボランティアが子どもたちに読み聞かせをする。 ※本年度は、町田市の学力向上モデル地区として近隣小中学校との共同研究も始めた。

⑤　成果と課題
＜成果＞ ・要約を続けたことで、他教科の学習のまとめに生かすことができた。 ・要約や書くことへの抵抗感がなくなった。 ・言葉に着目して読むことができるようになり、大事なことを落とさずに読めるようになった。 ・授業の「しかけづくり」でみんなで取り組めるようになった。 ・文字数制限でまとめることを繰り返すことに慣れて、少しずつ要約ができるようになった。 ・段落をバラバラにした課題提示をすることで、興味関心をもたせることができ、意欲が出た。 ・指示語、接続語の指導や、音読に取り組むことで内容理解につなげることができた。 ・文と文をつなぐ言葉を意識して文を読むこと、書くことができるようになった。 ・説明文指導の中で、説明する言葉や、問いと答えのパターンを繰り返し指導することで習熟ができた。 ・単元ごとに色々なパターンで書かせるなど、指導の幅が広がった。 ・応用することに抵抗がなくなった。主体的に書こうとする児童が増え、既習事項を使って書くことができるようになった。 **＜課題＞** ・語彙力が少ない。また、読書量が少なかった。 ・大事なところを落として要約してしまうことがある。 ・課題に取り組めない児童がいるので導入の工夫が必要である。 ・基礎基本の定着させることの必要性がある。 ・要約指導を繰り返してきたが、書く力が育たない部分がある。文章全体を要約することがまだ難しいところがある。 ・抽象的なことを説明する教材では課題が残る。 ・例文を用意しておくなど、接続詞の使い方の指導に改善の余地がある。 ・研究授業だけではなく、繰り返し指導することが必要である。

・帝京大学研究者

氏名	所属・職名	備考
高 橋　　勝	帝京大学大学院教職研究科・教授	